

町では、水道に加入される人の費用の負担軽減と水道加入促進を目的として「事前加入制度」を設けています。くわしくはお問い合わせください。

問合先 水道課 ☎22-3361

筑前町水道情報



「断水で知った水の大切さ」
～水害が残した心の贈り物～

平成17年9月に宮崎県を襲った台風14号は、記録的な大雨をもたらし、宮崎市の主力浄水場である富吉浄水場が冠水するという、水道の歴史の中でも未曾有の災害を引き起こしました。浄水場の機能停止により、全世帯の4割にあたる約3万世帯が断水し、高台の生目台団地などでは、約20日間の給水制限が続きました。

災害の発生から復旧までの水道局関係者の苦労は、並大抵のものではありませんでしたが、一方で他の水道事業者からの応援給水や市民ボランティアの参加など、多くの心温まるエピソードが報じられています。その一つが、当時宮崎市の小学6年生だった荒木大河君が書いた「断水で知った水の大切さ」についての作文です。昨年の水道週間に実施された懸賞募集の「作文の部（小学校高学年）」で、148点の応募作品の中から、特選の厚生労働大臣賞に選ばれました。

荒木君は、水が出ない生活の体験を通じて、水が飲料のほか生活のさまざまなところで使われているこ

指定工事店の紹介

筑前町水道指定給水装置工事事業者の紹介をします。町の指定を受けた事業者（平成19年9月3日交付分）は下表のとおりです。随時受付・登録を行っていきますので、新たな指定工事店は毎月広報に掲載し紹介します。

筑前町水道指定給水装置工事事業者

(平成19年9月3日交付)

指定店番号	指定業者名	指定業者住所	電話番号
43	行武電気商会	筑前町東小田399番地1	42-2274

問合先 環境課 ☎42-6613

STOP! 温暖化 vol. 3

地球にやさしいエネルギー

化石燃料は有限でもあり、環境にやさしく安定して供給されるエネルギーの確立が求められています。そこで注目されているのが新エネルギーです。新エネルギーとは、自然の力を利用したり、今までは使われずに捨てられていたエネルギーを有効に使ったりする地球にやさしいエネルギーで、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、クリーンエネルギー自動車などがあります。

新エネルギーは一般的にコストが高く、太陽や風のように自然条件に左右される面がありますが、国産エネルギーであり、基本的には二酸化炭素を発生させないという、優れた環境特性があります。

筑前町では、平成18年度に「筑前町地域新エネルギービジョン」を策定し、温暖化防止対策や新エネルギー政策に関する方向性を明らかにしました。筑前町は、気候条件など、太陽光発電設置に適しており、一般家庭が設置される場合は、補助を行っています。

太陽光発電補助申請受付しています

○補助対象 町内に居住、または居住しようとする住宅に、平成19年度中に太陽光発電を設置する人で、平成20年3月末までに工事完了し、実績報告書を提出できる人

○補助金額 1Kwあたり2万5千円（最高4Kwで10万円まで）

○申込方法 交付申請書に必要書類を添付し、役場環境課へ提出してください。なお、委任状の提出による代理申請は可能ですが、申請書は必ず申請者本人が記入し、押印してください。（※現在受付中。予算内で先着順に受付するため予算額を超えた時点で×切）

○注意事項・郵送による申請、電話予約はできません。

・補助対象となるシステムは、電力会社との電灯契約、余剰電力の販売契約を締結できるものになります。

・システム設置前の申請になりますので、ご注意ください。設置後の申請は受け付けていません。

問合先 教育課 ☎22-3385

みなさんの あたにかいご声援 をお願いします

中学2年生職場体験学習実施

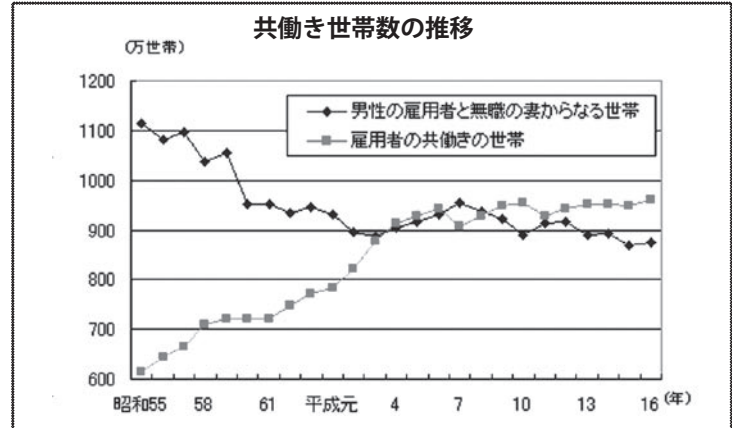
筑前町では、三輪中学校と夜須中学校の2年生全生徒を対象として、町内の商店や施設などの協力を受け、連続5日間の職場体験学習を実施します。

この学習は、中学生が明確な目的意識を持って日々の学校生活に取り組む、「生きる力」を身に付けながら激しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定する力を育成することが目的です。

保護者のみなさんはもちろん、町民のみなさんの、あたにかいご声援をよろしく願います。

○職場体験の場所
町内の商店や施設など

○職場体験の期間
夜須中学校
10月15日（月）～19日（金）
三輪中学校
11月12日（月）～16日（金）



総務省「労働力調査特別調査」、「労働力調査（詳細結果）」より作成

まちづくり課男女共同参画係 ☎22-3996

男女共同参画社会の実現を目指して それぞれの夫婦のスタイル 支援します



近年、「共働き」の世帯が増加しており、雇用者の世帯では、平成4年以降、「共働き」世帯が、専業主婦のいる「片稼ぎ」世帯をおおむね上回って推移しています。

女性が職業を持つことに対する意識も、これまでは、男女とも「子どもが出来たら仕事を辞め、大きく

なったら再び職業を持つ方が良い」という『一時中断型』を支持する人が多かったのですが、最近は男女とも、「子どもが出来てもずっと仕事を続ける」という『中断なし就業』を支持する人が多くなりました。これは長かった不況の影響もあるでしょうが、パートナーと一緒に働いて欲しいと思っている男性も多くなっているのです。

「共働き」スタイルは、経済的な事情による場合もありますが、男女それぞれの夢、希望の実現に向けて、お互いに支えあいながら家庭を運営していくパターンともいえます。しかし現実には、出産、育児となると、仕事と家庭の両立支援策が十分でないことから、夫婦ともに苦労することが多く、少子化の原因のひとつになっているとも考えられます。

一方「片稼ぎ」世帯でも、昔は祖母さんや近所の人から、何かとアドバイスを得られたことも、核家族が進む中で、お母さんがひとり子育てに悩んでいるケースが多いようです。そんな時、頼りになるのは夫です。

25歳から54歳の就業を希望する女性性は264万人（平成16年総務省「労働力調査」）もあり、子育てなどが一段落したら、社会に出て活躍したいという女性もたくさんいます。人口減少、高齢化の中で、これからは社会の担い手を確保していくことが課題となりますが、中でも女性を活用することが今後の社会を支えるために必要です。